



みはるまち らくおうきょうどうにゆうぎょう かぶしきがいしゃ きょうりよく
三春町 × 酪王協同乳業株式会社で協力してつくりました！

ふ っ こ く み は る ギ ュウ に ユウ

復刻！三春牛乳



みな みはるぎゅうにゅう はなし き
皆さんは、「三春牛乳」の話を聞いたことはありますか？

がっこうきゅうしよく うち みな の らくおうぎゅうにゅう むかし みはるぎゅうにゅう
学校給食やお家で皆さんも飲んだことがある「酪王牛乳」は、昔「三春牛乳」として
みはるまち みはるまち みな
三春町で、つくられていました。三春町では、皆さんに、おじいちゃんやおばあちゃんが、

く みはるぎゅうにゅう し
みんなの暮らしをよくしようと、三春牛乳をつくっていたことを知ってもらって、

おとな おす きも こ
大人になっても忘れずにいてほしいという気持ちを込めて、

らくおうきょうどうにゆうぎょう いっしょ むかし みはるぎゅうにゅう
酪王協同乳業さんと一緒に昔の「三春牛乳」のビンと

みはるたきざくら
「三春滝桜」をデザインしたパッケージをつくりました。

三春牛乳とは？

むかし 御木沢農協では、牛乳でみんなの暮らしをよくしようと考えて、昭和32年に三春駅前に工場を建てて「三春牛乳」をつくり始めました。

最初は、1日3千本で1本10円の牛乳でしたが、3年後には1日約1万本に増えました。三春牛乳は、二本松や猪苗代、会津若松、福島、いわきでも売られるようになり、三春町のみんなの暮らしは、とてもよくなりました。

そして、昭和50年には、もっとたくさんの人に牛乳を飲んでもらおうと「酪王牛乳」が誕生しました。

皆さんが、今、学校給食やお家で飲んでいる「酪王牛乳」には、三春町のおじいちゃんやおばあちゃんが、牛乳でみんなの暮らしをよくしたいという気持ちでつくり始めた「三春牛乳」の思いが受け継がれています。



▲検ピン作業の風景 (写真:「農協のあゆみ 御木沢農協43年の記録」より)

▲三春駅前にあった三春ミルクプラント (写真:ENEOS三春駅前SSに掲示)

旧御木沢農協による 三春牛乳のあゆみ

1955
↓
2025

- 昭和30年「1955年」……旧御木沢農協がみんなの暮らしをよくしようと「酪農」の取り組みを始める。
- 昭和32年「1957年」……三春ミルクプラント工場を三春駅前に建てて「三春牛乳」をつくりはじめる。
- 昭和33年「1958年」……郡山市清水台に出張所がつけられる。
- 昭和40年「1965年」……雪印の牛乳をつくり始める(43年まで)。
- 昭和41年「1966年」……二本松、猪苗代、会津若松、福島、いわきでも「三春牛乳」を売り始める。
- 昭和43年「1968年」……1日1万2千本の牛乳がつくれるように工場を大きくする。
- 昭和50年「1975年」……「三春牛乳」が新しいブランド名を募集して「酪王牛乳」となる。
- 昭和56年「1981年」……三春工場が閉鎖される。
- 平成4年「1992年」……御木沢農協が合併し、三春農業協同組合になる。
- 令和7年「2025年」……三春町合併70周年と酪王牛乳誕生50周年を記念して、復刻牛乳のパッケージをつくる。

三春牛乳 ビンの歴史



▲昭和50年頃。容量が180mlから200mlに増量し、再び黒い三春駒に。



▲昭和40年代中期～昭和50年頃。年代によって色や三春駒のデザインが変わっています。



▲昭和40年代中期頃のビン。白い三春駒から、黒い三春駒にチェンジ。



▲昭和30年代誕生当時。シンボルマークの三春駒の絵は代々続いていきます。



※復刻版三春牛乳の売り上げの一部は、三春滝桜の保全活動に使われます。



酪王協同乳業株式会社
佐久間代表取締役社長

復刻版パッケージへの思い

酪王牛乳の原点である三春牛乳。今回の復刻で、先人たちの努力と思いを若い世代に知ってもらうきっかけになればと強く思います。

酪王牛乳は、生乳本来の味に近く飲みやすいのが特徴です。骨を強くするカルシウムが豊富で、栄養も吸収されやすいので毎日飲んでほしい飲み物です。酪農家、ドライバー、工場が一体となった徹底した品質管理のもと、美味しい状態で学校給食や食卓へ届けています。復刻版牛乳をたくさん飲んで健康な体を目指しましょう！